



2026年3月期 第2四半期（中間期）決算説明資料

2025年4月～9月

株式会社MCJ

2025年11月5日

2026年3月期 中間期（4月～9月）における主なトピックス

業績サマリー

□ 売上高及び営業利益共に過去最高を更新

- 上半期（4月～9月）及び2Q（7月～9月）の双方において過去最高を更新
- 増収減益想定の期初計画比で売上高及び各利益共に上振れ、前年同期比増収増益を達成

業績に係るトピック

□ パソコン関連事業は国内PC事業の好調が全体業績を牽引

- 国内PC関連事業はマウス、ユニットコムが全体の増収増益を牽引
- 海外PC関連事業は上半期では期初予想通り減益も、2Q(4月～6月)*は両社ともに前年同期比営業増益確保

□ 総合エンターテインメント事業は前年同期比増収増益

- コロナ禍における構造改革効果と売上向上施策効果が継続
 - ネットカフェの増益基調継続に加え、24時間フィットネス事業が引き続き増益を牽引

□ 上半期の好調を受け通期予想を上方修正

- 期初予想における上半期は前年同期比14%営業減益想定も、10.1%の営業増益にて着地。前期1Q計上の資産売却を除く実施ベースでは18.3%の増益となる
- 上半期結果を受けて通期業績を上方修正。過去最高の売上高と営業利益を想定

その他トピックス

□ 今期スタートの新中計にて掲げる積極的な株主還元を早期に実施

- 2025年7月より総額40億円の自社株買いを実施
- 前期発表自社株買いの今期購入分12億円、及び6月株主総会にて承認の総額42億円の配当と合わせて4月以降総額94億円を株主へと還元

1. 中間期連結業績報告**3 – 2 3**

2. その他のトピックス

2 5 – 2 7

3. 通期見通し

2 9 – 3 2

連結業績サマリー (1/2)

2026年
3月期
中間期
実績4月～9月
累計期間□ 国内PC事業の好調により、売上高及び各利益共に過去最高を達成

- 売上高： 1,041億円 （前年同期比 8.3%増）
- 営業利益： 107億円 （同 10.1%増）
 - 減益想定の期初予想を覆し、2桁の営業増益を達成
 - 売上総利益率及び営業利益率も過去最高を達成。売上の成長に加え高水準の利益率が継続

7月～9月
会計期間□ 2Qとして売上高及び営業利益共に過去最高を達成

- 売上高： 520億円 （前年同期比 13.8%増）
- 営業利益： 49億円 （同 30.4%増）
 - 売上高は2Qとして初の500億円超えを達成
 - 国内PC事業の増益継続に加え、海外PC事業も2Qでは両社共に営業増益達成。結果2Qとして営業利益は初の40億円超えとなる

連結業績サマリー (2/2)

2Qでは前年同期比での増収増益幅が1Qから更に拡大
結果、上半期及び2Q双方において過去最高の売上高及び営業利益となる

(百万円)	会計期間 (7月～9月)			累計期間 (4月～9月)		
	2025年3月期 第2四半期	2026年3月期 第2四半期	増減率	2025年3月期 中間期	2026年3月期 中間期	増減率
売 上 高	45,714	52,040	13.8%	96,178	104,171	8.3%
営 業 利 益	3,776	4,923	30.4%	9,763	10,749	10.1%
経 常 利 益	4,224	4,707	11.4%	10,223	10,780	5.4%
親会社株主に帰属する 中 間 純 利 益	2,959	3,245	9.7%	7,263	7,448	2.6%

- ❑ 1Qに続き2Qでも前年同期比での増収基調が継続
- ❑ 2Qでは海外PC事業も前年同期比での営業増益転換した事もあり、30%を超える営業増益となる
- ❑ 以上の結果、上半期及び2Q双方において過去最高の売上高及び営業利益を達成

【参考資料】 一時的な要因を除いた 連結業績サマリー

前期1Qに計上の一時収益を除く実質ベースでは
上半期売上高及び各利益共に2桁を超える大幅な増収増益となる

(百万円)	会計期間（7月～9月）			累計期間（4月～9月）		
	2025年3月期 第2四半期	2026年3月期 第2四半期	増減率	2025年3月期 中間期	2026年3月期 中間期	増減率
売上高	45,714	52,040	13.8%	94,473	104,171	10.3%
営業利益	3,776	4,923	30.4%	9,083	10,749	18.3%
経常利益	4,224	4,707	11.4%	9,543	10,780	13.0%

- 前期1Qに保有資産売却収益を計上。上記は当該影響を除く実質ベースでの参考数値となる
- 当該一時収益を除く実質ベースでは、上半期業績の増収増益基調がより鮮明となる

中間期（4月～9月）連結損益計算書

売上高は上半期として初の1,000億円超えとなる
利益面では各利益額及び利益率ともに上半期として過去最高を更新

(百万円)	2025年3月期 中間期		2026年3月期 中間期		前年同期比	
	金額	売上対比	金額	売上対比	増減金額	増減率
売上高	96,178	100.0%	104,171	100.0%	7,993	8.3%
売上原価	71,427	74.3%	77,135	74.0%	5,708	8.0%
売上総利益	24,751	25.7%	27,035	26.0%	2,284	9.2%
販売費及び一般管理費	14,987	15.6%	16,286	15.6%	1,298	8.7%
営業利益	9,763	10.2%	10,749	10.3%	985	10.1%
経常利益	10,223	10.6%	10,780	10.3%	556	5.4%
税金等調整前 中間純利益	10,191	10.6%	10,788	10.4%	596	5.9%
親会社株主に帰属する 中間純利益	7,263	7.6%	7,448	7.2%	185	2.6%

国内PC事業各社が
2桁増収となり全体を
牽引

売上総利益額及び
率共に過去最高を達
成。円安傾向継続も
高水準の利益率が
継続

人件費や広告宣伝
費といった戦略費用
増に加え、売上増に
伴う変動費用が増加
するも、売上に対する
販管費率は通常水
準を維持

上記の結果、営業増
益額及び率共に過去
最高となる

経常利益以下の各
利益も上半期として
の過去最高を更新

【参考資料】一時的な要因を除いた 中間期（4月～9月）連結損益計算書

前年1Q計上の保有資産売却に伴う影響を除いた実質ベースでは
売上・利益共に2桁増となり、増収増益基調がより鮮明となる

(百万円)	2025年3月期 中間期		2026年3月期 中間期		前年同期比	
	金額	売上対比	金額	売上対比	増減金額	増減率
売上高	94,473	100.0%	104,171	100.0%	9,697	10.3%
売上原価	70,402	74.5%	77,135	74.0%	6,733	9.6%
売上総利益	24,071	25.5%	27,035	26.0%	2,964	12.3%
販売費及び一般管理費	14,987	15.9%	16,286	15.6%	1,298	8.7%
営業利益	9,083	9.6%	10,749	10.3%	1,665	18.3%

国内PC事業各社が
2桁増収となり全体を
牽引

売上総利益額及び
率共に過去最高を達
成。円安傾向継続も
高水準の利益率が
継続

戦略費用の増額影響
あるも、対売上高比率
は前年同等を維持

上記の結果、営業利
益額及び率共に過去
最高となる

第2四半期（7月～9月）連結業績推移グラフ

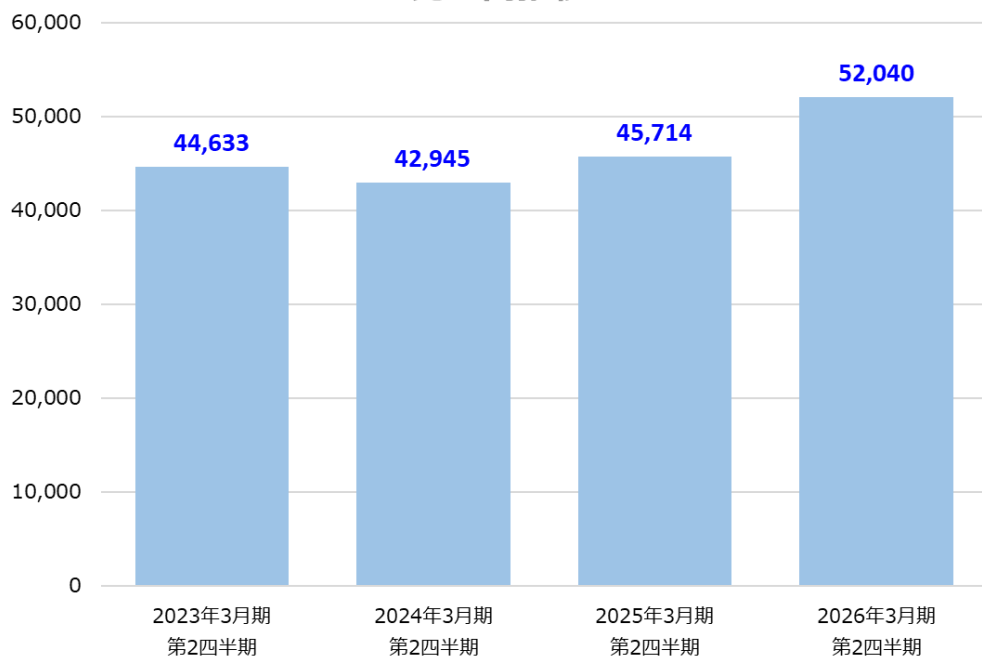
売上高は国内PC事業が牽引し増収
営業利益も大幅増益となり、売上・営業利益共に2Qとしての過去最高となる

国内PC事業3社がいずれも前年同期比2桁増収となり、2Qとして初の売上高500億円超えを達成

マウス、ユニットコム中心に、国内外PC事業全社が前年同月比増益となり2Qとして初の40億円超えの営業利益となる

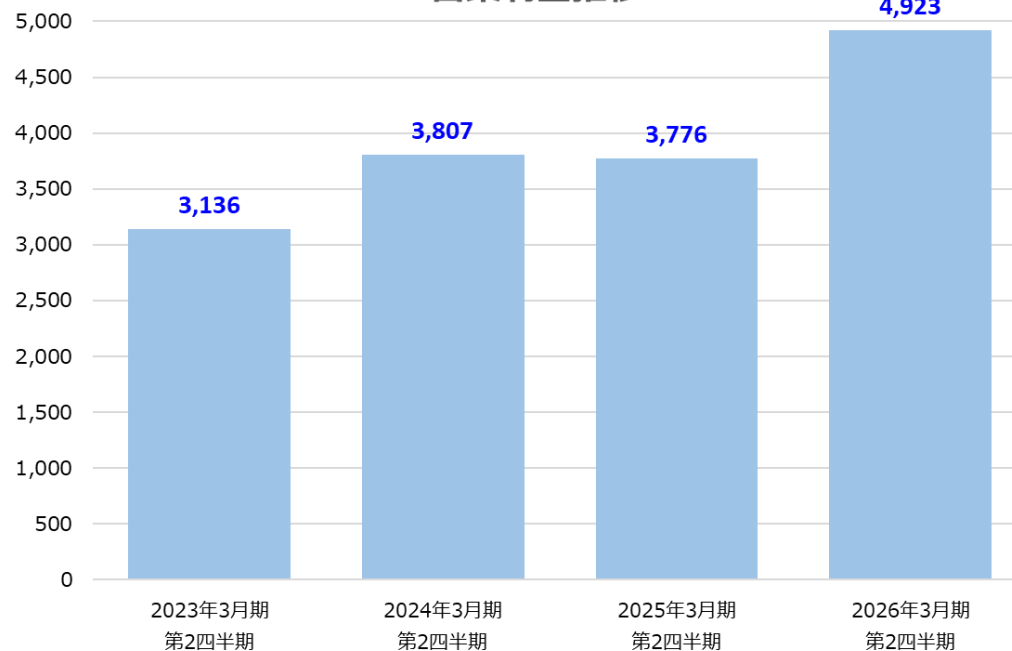
（単位：百万円）

売上高推移



（単位：百万円）

営業利益推移



中間期（4月～9月）連結業績推移グラフ

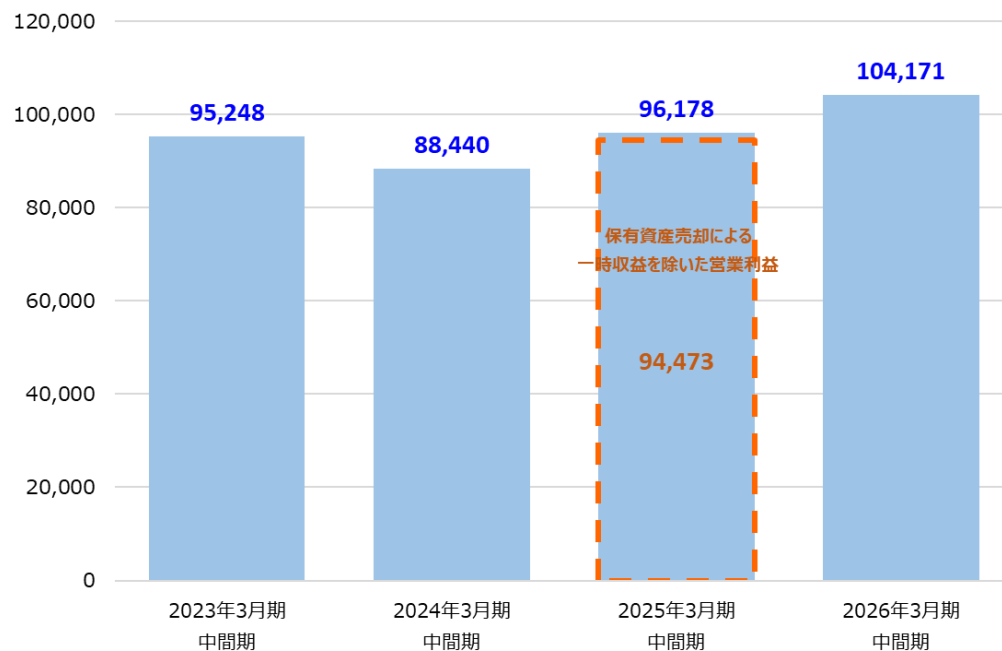
売上高は上半期として初の1,000億円超えを達成
営業利益は安定的に伸長し、**上半期としての過去最高益を3年連続で更新**

国内PC事業3社がいずれも前年同期比2桁増収となり、**上半期として初の売上高1,000億円超え**を達成

国内PC事業3社がいずれも前年同期比で大幅な増益となり、**上半期として初の営業利益100億円超え**を達成

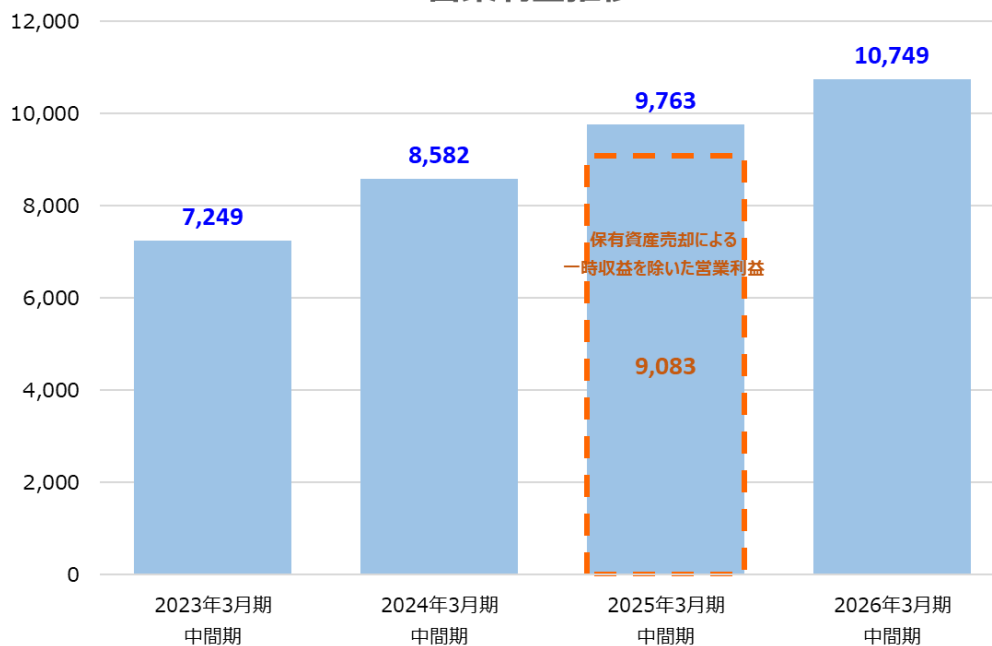
(単位：百万円)

売上高推移



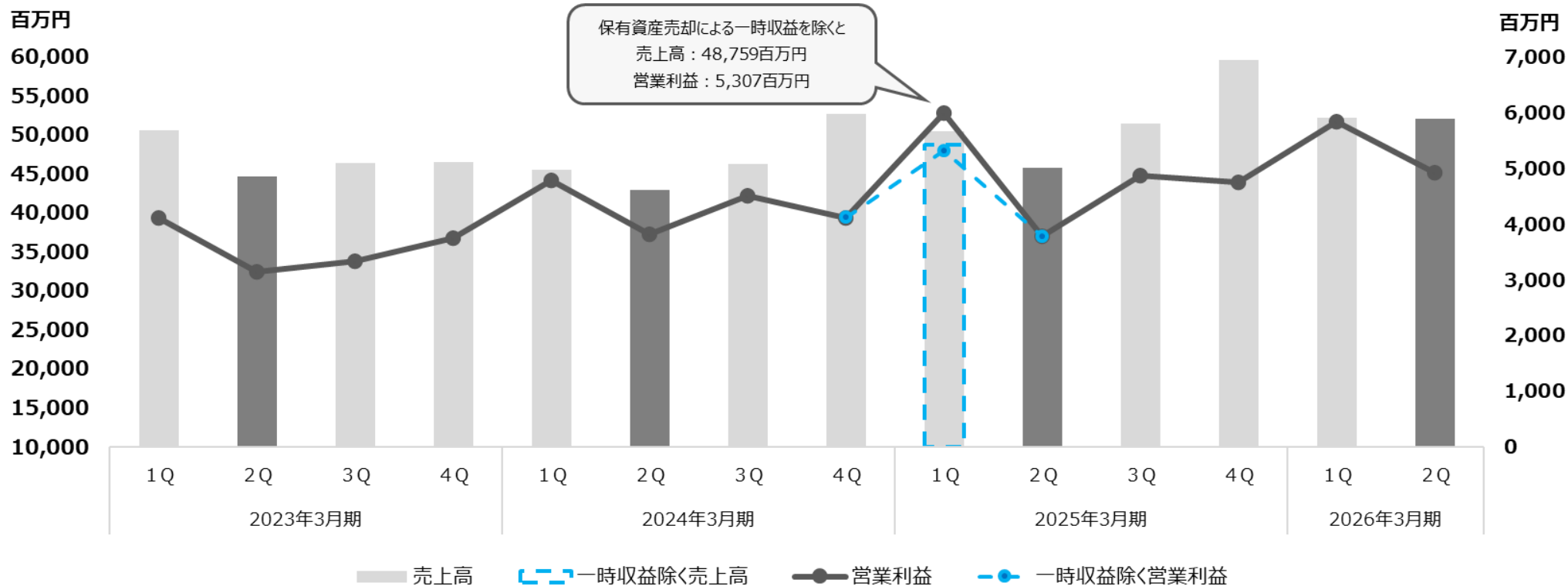
(単位：百万円)

営業利益推移



第2四半期（7月～9月）連結業績推移

1Qに続き、売上高は500億円を超える結果となり、1Qとほぼ同等の売上規模を達成
営業利益も50億円近くに達し、**高水準の利益成長を継続**



(百万円)	2023年3月期				2024年3月期				2025年3月期				2026年3月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	50,614	44,633	46,378	46,449	45,495	42,945	46,299	52,715	50,464	45,714	51,378	59,614	52,131	52,040
営業利益	4,113	3,136	3,328	3,740	4,775	3,807	4,498	4,111	5,987	3,776	4,860	4,753	5,826	4,923

※ 上記表の2025年3月期1Qには、保有資産売却による一時収益による影響を含んでおります。

中間期（4月～9月）連結業績予想に対する達成率及び進捗

- 上半期業績に係る期初予想は、前年1Q計上の一時収益の影響やiiyama減益の前提にて14%程度の営業減益想定
- 国内PC事業は増収増益予想も保守的な数値反映に留め、結果期初予想では全体として増収減益の計画

(百万円)	中間期連結業績予想に対する達成率		
	2026年3月期 中間期実績	2026年3月期 中間期 期初業績予想	達成率
売上高	104,171	99,000	105.2%
営業利益	10,749	8,400	128.0%
経常利益	10,780	8,400	128.3%
親会社株主に帰属する 中間期純利益	7,448	5,900	126.2%

売上高は国内PC
事業が牽引し期初
想定通り前年同期
比増収

14%～18%程度の
減益想定であった
各利益は、国内PC
事業の大幅増益に
加え、iiyamaも計
画を超過し、全体と
して期初予想を上
回り着地

2026年3月期通期業績予想を上方修正

《期初通期予想の対前年通期実績比》

(百万円)	前年度実績に対する期初予想比率		
	2025年3月期 通期実績	2026年3月期 期初通期予想	対比率
売上高	207,171	208,900	100.8%
営業利益	19,378	17,400	89.8%
経常利益	20,018	17,400	86.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	14,052	12,000	85.4%

- 売上高は国内PC事業の好調を主因とし増収を計画、過去最高の売上高更新を狙う
- 利益面では、①国内PC事業の増益幅は保守的に見積もる一方で、②前期1Q計上の資産売却に伴う一時収益の影響（営業利益で約7億円相当）、③iiyamaの減益（前期上半期のハードルの高さ及び為替要因による）、及び④販管費増、により減益を想定

《今回上方修正後の通期業績予想：売上高及び営業利益共に過去最高を見込む》

(百万円)	前年度実績及び期初予想に対する修正予想比率				
	2026年3月期 修正通期予想	2025年3月期 通期実績	対比率	2026年3月期 期初通期予想	対比率
売上高	214,000	207,171	103.3%	208,900	102.4%
営業利益	19,700	19,378	101.7%	17,400	113.2%
経常利益	19,700	20,018	98.4%	17,400	113.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	13,500	14,052	96.1%	12,000	112.5%

- 上半期については、①国内PC事業の期初予想比での好調、並びに②iiyamaの減益幅が想定よりも小さかったこと、から前年同期比増収増益にて着地
- 下半期については好調継続も、保守的な計画スタンスにより下半期業績予想は期初予想にてステイ。上半期上振れ分のみを加味して通期業績予想を修正
- 以上の結果、**売上高及び営業利益共に過去最高の更新を見込む**

セグメント情報 中間期 4月～9月実績

パソコン関連事業





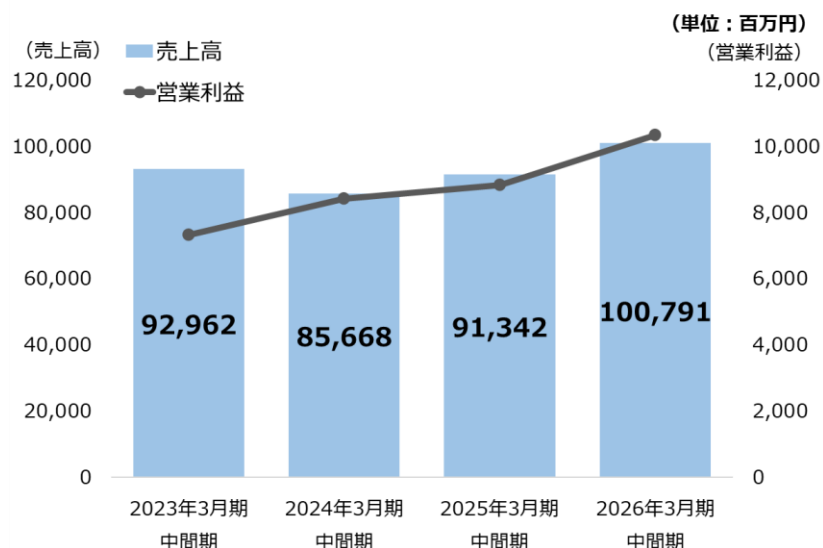


➤ 売上高 1,007億円（前年同期比10.3%増）

- 国内パソコン関連事業はマウス、ユニットコム、テックウインドの3社ともに前年同期比2桁増収を達成
- 海外パソコン関連事業（1月～6月）はiiyama、R-Logicともに前年同期減収

➤ 営業利益 103億円（同17.0%増）

- 国内パソコン関連事業は3社ともに前年同期比大幅増益を達成
- 海外パソコン事業は両社ともに前年同期比減益となるも、2Q（4～6月）は両社共に前年同期比増益



パソコン関連事業 (百万円)	2025年3月期 中間期		2026年3月期 中間期		前年同期比	
	金額	構成比率	金額	構成比率	増減額	増減比率
売上高	91,342	96.7%	100,791	96.8%	9,449	10.3%
営業利益	8,815	97.0%	10,314	96.0%	1,499	17.0%

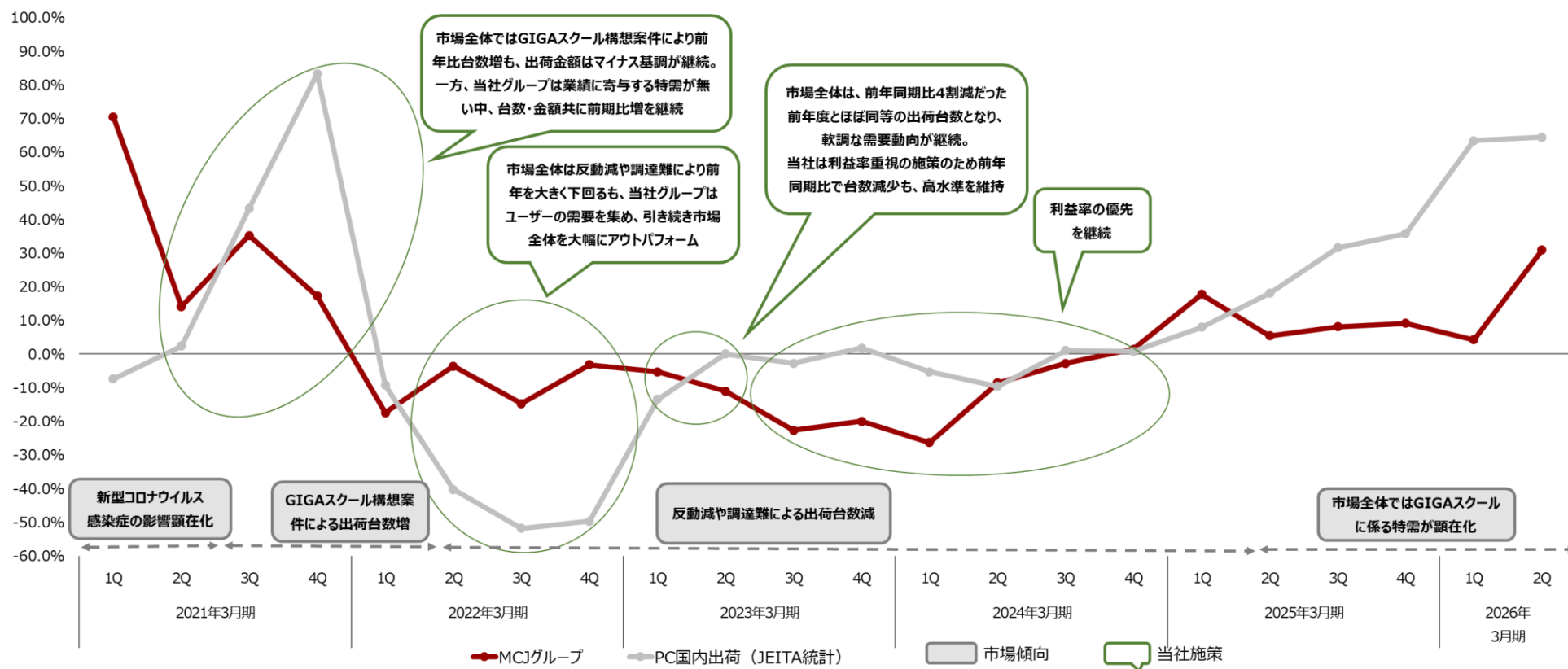
※ 上記表には、連結消去及び全社費用等の金額が含まれていないため、「連結売上高」数値と各セグメント数値の合計値とが異なります。なお、構成比は、「連結売上高」数値を基に算出しております。

※ 2025年3月期につきましては、保有資産売却に係る一時収益を除いた数値となります。

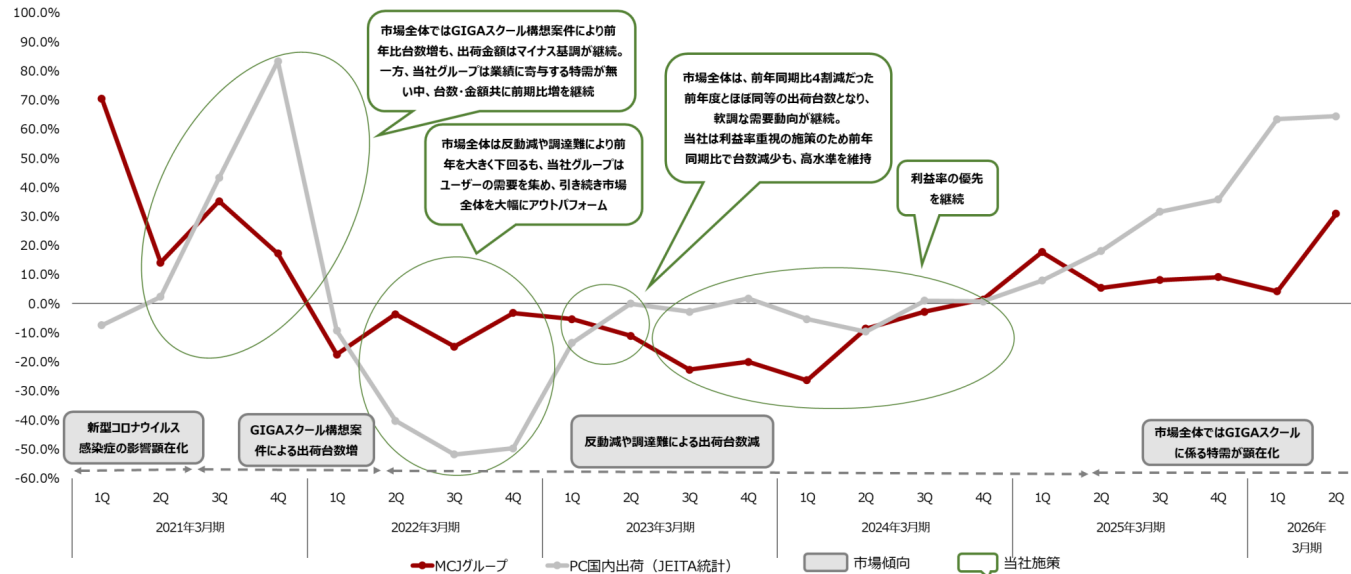
国内パソコン出荷台数増減率の推移（1/2）

国内PC市場全体はGIGAスクールに係る出荷を中心に好調を維持
当社グループはGIGAスクールへの積極関与せずとも前年同四半期比での出荷台数増が継続

- ※ 下記グラフは対前年同四半期での出荷台数の増減（例えば今期4Qと前期4Qとの比較）を示すものであり、経年での出荷台数又はその増減の推移を表すものではありません。
- ※ 当社グループの数値はマウスとユニットコムの出荷台数合算でグループ全体の平均的なトレンドを表しており、個別の会社の実際の出荷台数増減トレンドや強弱とは異なる可能性があります。



国内パソコン出荷台数増減率の推移（2/2）



GIGAスクール特需の影響が限定的な当社グループは、2023年3月期及び2024年3月期において、調達環境やユーザー需要を鑑みた利益重視施策により政策的に出荷台数を抑制するも、2021年3月期以降の台数減は市場対比でマイルドであり、前年同四半期比でのハードルが市場より高いものの、2024年3月期4Qより一貫して前年同四半期比での台数増が継続

今後も出荷台数増と収益性のバランスを重視し、継続性と安定性のある成長を目指す

国内PC市場はコロナ特需やGIGAスクール需要等により2021年3月期が直近のピーク。特需後以降はマイナスが続き2024年3月期までの3年間で市場規模が約半減

前期2025年3月期からは以下の要因によりユーザー需要が回復。期初想定通り下半期以降、前年同四半期比での台数増がより加速

1. サイクル的な買い替え需要（前期期初より顕在化）
2. Windows10サポート終了（2025年10月）に伴う買い替え需要
3. GIGAスクール更新需要（上記2とともに前期下期より顕在化）

【参考】

市場全体の2Q前年同期比：**164.4%**

- ・うちモバイルノート(GIGA含む)：**200.9%**
- ・うち通常ノートPC：**132.5%**
- ・うちデスクトップPC：**134.9%**

主要子会社トピックス 【マウスコンピューター】



PC及び周辺機器の開発・製造・販売

2026年3月期 中間期 実績

(百万円)	2025年3月期 中間期	2026年3月期 中間期	増減率
売上高	29,356	33,442	13.9%
営業利益	1,622	2,797	72.4%
経常利益	1,895	2,868	51.4%
当期純利益	1,227	1,873	52.6%

- 売上高は順調に増収を重ね、**上半期としての過去最高**を達成
- ゲーミングを中心とするハイスpekPC、個人向け、法人向け共に好調に推移
- 自社EC、法人直販が全体を牽引
- 人件費、広告宣伝費、変動費用を中心に販管費が増加するも、大幅増益を達成
- 以上の結果、営業利益は前年同期比で大幅に増益となり、**利益率も向上**

主要子会社トピックス 【マウスコンピューター】

製品多様化・差別化の推進と新規ユーザー獲得に向け、積極的な営業・製品施策を展開

製品力を更に強化

ゲーミング、法人向け等多数の新製品、新デザインを投入



拡販に向けた目的別 プロモーション / コラボレーション

東京ゲームショー2025



大阪府とeスポーツ連携強化：
JESU大阪万博JAPAN ESPORTS
CONNECT協賛、大阪eスポーツラウン
ドテーブル協賛、等



主要子会社トピックス 【ユニットコム】



オリジナルPC、PCパーツ、周辺機器等の販売

2026年3月期 中間期 実績

(百万円)	2025年3月期 中間期	2026年3月期 中間期	増減率
売上高	17,718	22,705	28.1%
営業利益	347	1,172	237.9%
経常利益	295	1,239	319.6%

□ ゲーミング等のハイスペックPCに加え、法人向けも大幅な増収となり、全体を牽引

□ 自社店舗の好調に加え、法人向け販路が堅調に拡大

□ 近年注力するハイブリット型店舗も好調に推移。一部店舗では更なる拡大を図り、店舗リニューアルを実施

□ 以上の結果、利益率が改善した前期下半期を更に上回る水準の営業利益率を達成

※2025年3月期については、保有資産売却に係る一時収益を除いた数値となっております。

※税金の影響を非公開としているため、経常利益までの表示としております。

主要子会社トピックス【ユニットコム】

収益構造改革を経て稼ぐ力が安定化。更なる拡大に向け積極的な営業・製品施策を展開

注力分野での製品積極投入

東京ゲームショー2025製品提供



新たな顧客層開拓の為の製品多様化・アップデート



プロモーションによる顧客獲得強化

法人営業拠点などを併設したハイブリット型店舗一例



■ 町田店

✓ 更なる拡大に向け
9/13全面改装リ
ニューアル



■ 八王子店

✓ 町田店リニューアル時に同時コラボ
セールを実施

主要子会社トピックス 【テックウインド】



PC及びPC周辺機器パーツの卸売・販売

2026年3月期 中間期 実績

(百万円)	2025年3月期 中間期	2026年3月期 中間期	増減率
売上高	13,514	15,637	15.7%
営業利益	52	208	298.0%
経常利益	69	211	206.4%
当期純利益	56	144	153.3%

- 急激な円安を受け低迷していた業績を打開するべく、前期下期より打ち出した施策効果により、上期は増収増益となる
- 利益重視施策により、特に増益幅が拡大
- 引き続き新たな事業模索や商材発掘を通じ、**利益率向上を図り**、事業の安定を目指す

《BS事業所の様子》

注力するソリューション事業強化に向けて、
機能やキャパシティを拡大



主要子会社トピックス【iiyama】



モニタの開発及び販売（欧州モニタ事業）

2026年3月期 中間期(2025年1月～2025年6月)実績*

(百万円)	2025年3月期 中間期	2026年3月期 中間期	増減率
売上高	31,206	29,963	△4.0%
営業利益	6,553	5,800	△11.5%
経常利益	7,088	6,012	△15.2%
当期純利益	5,280	4,429	△16.1%

- 上半期は**期初予想通り減収減益**となる
- 一方で、欧州の景況感悪化継続に伴う軟調な需要が継続する等、困難な市場環境下においても、**売上高・利益共に期初予想を上回り**着地
- 市場環境に迅速に対応した結果、**2Q（4月～6月）では前年同期比での営業増益**を達成
- 産業用モニタを中心に受注が好調な中、期初予想を超える利益率及び水準を達成
- 年末商戦を控える下半期に向けて、新製品投入等による更なる収益拡大を目指す

※ 外国法人としてのiiyamaは12月決算の為、3か月期ずれて当社連結決算に組み込んでおり、上記においては2025年1月～2025年6月の業績を連結上組み込んでおります

主要子会社トピックス【iiyama】

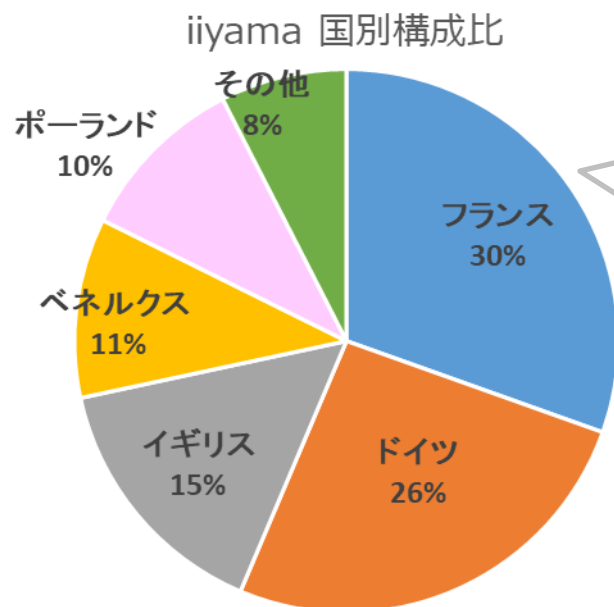


モニタの開発及び販売（欧州モニタ事業）

2026年3月期 中間期(2025年1月～2025年6月)実績*1

事業展開国別の構成比*2

既存展開国における営業強化に加え、今後展開エリアを順次拡大予定



EU地域全体の事業環境が振るわない中、展開する主要各国において需要や利益水準を慎重に精査し営業施策を展開

主要製品（例）

当社産業用ディスプレイへの需要は堅調を維持

《Interactive display、一例》



産業用は販売台数、金額共に前年同期比増を達成

《デジタルサイネージ利用イメージ図》



※1 外国法人としてのiiyamaは12月決算の為、3か月期ずれて当社連結決算に組み込んでおり、上記においては2025年1月～2025年6月の業績を連結上組み込んでおります

※2 出荷台数ベースにて集計しております。また、ベネルクスには、オランダ、ベルギー、ルクセンブルクを内包しております。

セグメント情報 中間期 4月～9月実績

ロ 総合エンターテインメント事業：株式会社aprecio、株式会社MID 【ネットカフェ、24時間フィットネス、接骨院・整体院、ホテル運営事業】

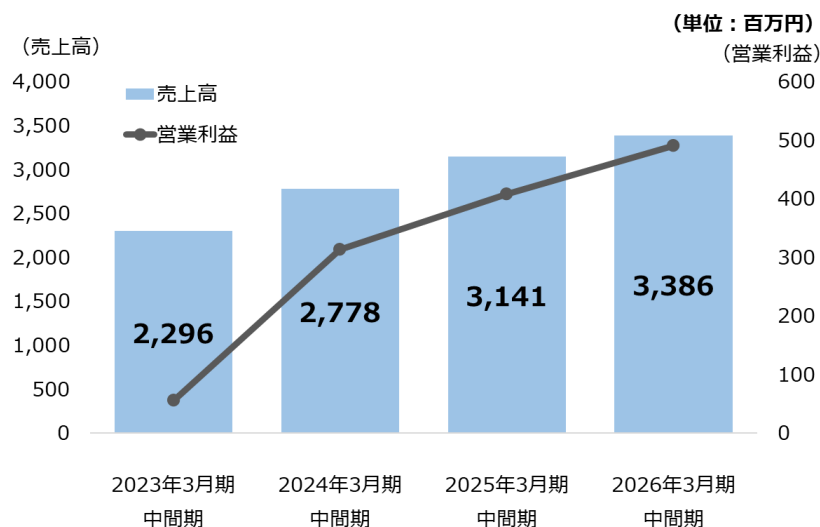


➤ 売上高 33.8億円（前年同期比7.8%増）

- 提供する各サービスにおいて利用客数の増加傾向が継続
- 24時間フィットネス事業が引き続き堅調に推移し、全体の増収を牽引

➤ 営業利益 4.9億円（同20.2%増）

- 主力事業であるネットカフェ事業は増益基調が継続
- 注力事業である24時間フィットネス事業も引き続き増益となり全体を牽引



総合エンターテインメント事業 (百万円)	2025年3月期 中間期		2026年3月期 中間期		前期比	
	金額	構成比率	金額	構成比率	増減額	増減比率
売上高	3,141	3.3%	3,386	3.3%	245	7.8%
営業利益	408	4.2%	490	4.6%	82	20.2%

※ 上記表には、連結消去及び全社費用等の金額が含まれていないため、「連結売上高」数値と各セグメント数値の合計値とが異なります。なお、構成比は、「連結売上高」数値を基に算出しております。

1. 中間期連結業績報告

3 – 2 3

2. その他のトピックス

2 5 – 2 7

3. 通期見通し

2 9 – 3 2

中期経営計画進捗サマリー

		目標値	実績
2026年 3月期 中間期 4月～9月	営業利益率	7%以上	<u>10.3%</u>
	ROIC	15%程度以上	<u>通期にて開示予定</u>
	ROE	15%程度以上	<u>通期にて開示予定</u>
	配当性向	30%以上	<u>31.2%（計画）</u>
	DOE	4.5%程度	<u>通期にて開示予定</u>
	総還元性向	30～50%中心 80%上限目安	<u>通期にて開示予定</u>
	事業運営 方針	□ 足元の事業環境や中計方針に則り以下方針にて着実な成長を狙う ●【国内PC事業】：マウス、ユニットコム：利益を伴う売上成長を図り、将来的な更なる事業の拡大に備える テックウインド：収益基盤の多様化による収益性の安定化 ●【海外PC事業】：変わりつつある環境に臨機応変に適応し収益基盤強化 ●【総合エンターテインメント事業】：伸ばせる事業へ注力。黒字定着及び拡大	

MCJグループのESG活動例：MCJ単体による寄付活動例

当社における関連活動及び実績一例紹介

《全体方針の策定：2020年》



《方針策定後の寄付件数及び額》

- 当社グループがその方針の中で重要と考えるテーマなどに合致した活動を行うNPO法人等へ、金銭又は当社製品の寄付を毎年実施
- 下記はMCJ単体としての実績であり、グループ各社の寄付等は含まない

■ 方針策定後の寄付件数

✓ 18件

■ 寄付金額総額

✓ 65百万円

JPX日経インデックス400に6年連続で選定される



■ 東京証券取引所及び日本経済新聞社が共同で算出する「JPX日経インデックス400」へ選定

- » 当社は2020年度に初めて選定される
- » その後、**本年度含め6年連続で選定**

■ 当社は今後も投資家の皆様のご期待に添えるよう、更なる企業価値向上を目指した事業運営に尽力してまいります



2025年8月8日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 M C J
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 兼 C O O 安 井 元 康
(スタンダード市場 コード番号: 6670)
問 合 せ 先 経 営 企 画 室 広 報 I R 担 当
ir-otoiawase@mcj.jp

「JPX 日経インデックス 400」構成銘柄への再選定に関するお知らせ

当社は、このたび株式会社東京証券取引所及び株式会社日本経済新聞社が共同で算出を行っている「JPX 日経インデックス 400」の構成銘柄として、2024 年度に引き続き、6 年連続で 2025 年度（2025 年 8 月 29 日～2026 年 8 月 28 日）も選定されましたのでお知らせいたします。

本指数は、資本の効率的活用や投資者を意識した経営視点など、グローバルな投資基準に求められる諸要件を満たした「投資者にとって投資魅力の高い会社」で構成され、日本企業の魅力を内外にアピールするとともに、その持続的な企業価値向上を促し、株式市場の活性化を図ることを目的として創生された株価指数です。

東京証券取引所（プライム、スタンダード、グロース）を主市場とする普通株式銘柄から選定された 400 銘柄で構成されます。

当社は今後も投資家の皆様のご期待に添えるよう、更なる企業価値向上を目指した事業運営に尽力してまいります。

「JPX 日経インデックス 400」の詳細につきましては、以下をご参照ください。
<https://www.jpx.co.jp/markets/indices/jpx-nikkei400/index.html>

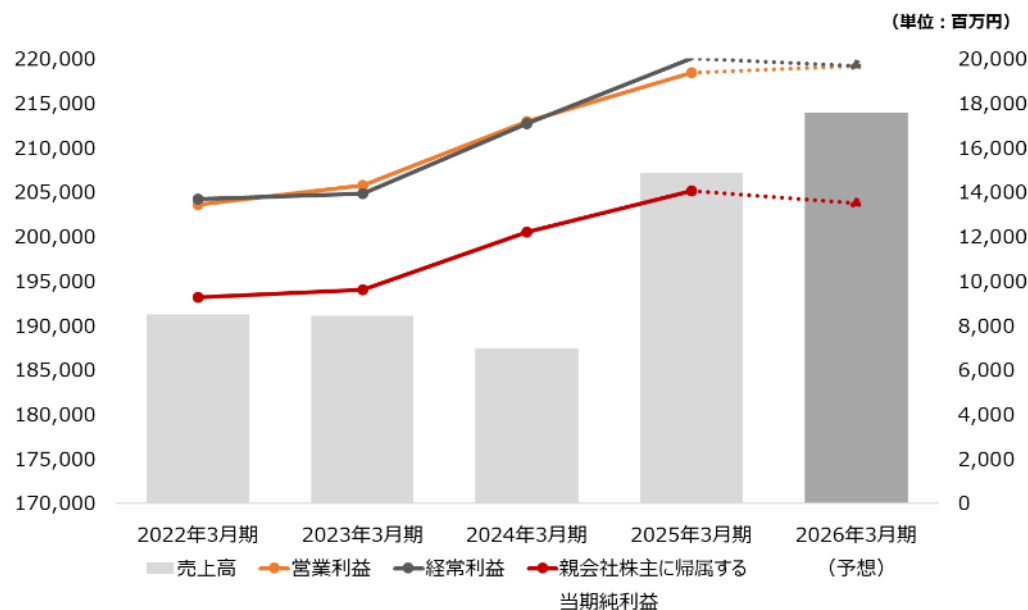
以上

1. 中間期連結業績報告	3 – 23
2. その他のトピックス	25 – 27
3. 通期見通し	29 – 32

2026年3月期【上方修正後】の通期連結業績計画

期初予想比の段階では増収減益計画も、上半期の好調を受け
通期業績を上方修正。過去最高の売上高及び営業利益を見込む

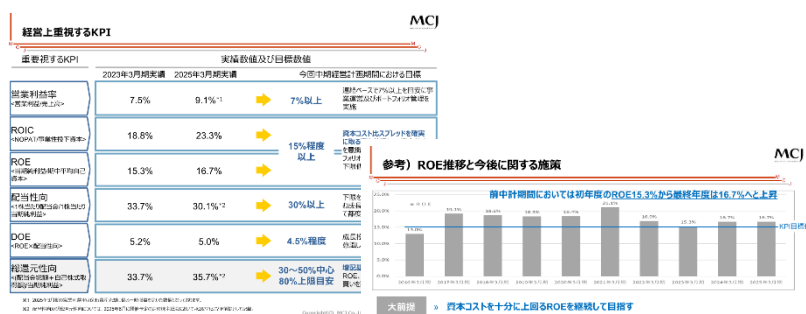
(百万円)	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期 (予想)
売上高	191,247	191,076	187,455	207,171	214,000
営業利益	13,435	14,318	17,192	19,378	19,700
経常利益	13,680	13,935	17,087	20,018	19,700
親会社株主に帰属する 当期純利益	9,283	9,603	12,199	14,052	13,500



■ 株主還元の強化は、当社グループが初めて中期経営計画を策定した2017年3月期より掲げる

- » 前期2025年3月期まで 1株当たり普通配当金額は12年連続で増配を記録
- » 中計策定前の2016年3月期との対比では、配当性向は10.2%から30.1%へと上昇、1株あたり配当金額は6.5円から43円と約7倍に増加
- » 2025年5月に公表の現中期経営計画方針に基づき、今期も更に株主還元を強化

《中計で掲げる還元/キャッシュアロケーション方針》



キャッシュ・フロー及び資本配分に関する今後の想定と考え方

健全な事業運営上必要なワーキングキャピタルを維持しつつ、創出した営業CFを含む配分原資は
①持続的な成長を担保する為の資本コストを上回るリターン確保可能な成長投資への充当
②及び業績成長に基づいた安定的な株主還元（配当）、機動的な追加株主還元（自社株式取得）
の両面へ、逐次取り配するものとする。

約100億円以上	M&A、アライアンス投資
----------	--------------

中計3年間の期間で想定される累計営業CF

成長投資

設備投資
DX投資

約100億円程度

400億円程度

配当金

手元キャッシュ	株主への安定的、継続的リターンと位置 付け普通配当の増進配当目標	20
2025年3月末 ネットキャッシュ	株主還元	20

約430億円

2025年2月及び3月に自社株

上場企業に比べて、必要資金は300億円程度

《今期想定及び実績》

配当金

自社株買い

【方針】

- 株主への安定的、継続的リターンと位置付け、普通配当の累進配当を目指す

【今期想定】

- 今期にて13年連続の
1株当たり普通配当金額
の増配を前提とする

【方針】

- 手元キャッシュ、ROE想定、成長投資機会等を念頭に機動的に実施

【今期実績】

- 2025年5月に40億円の自社株買い発表。既発表分と合わせ今期に入り52億円の自社株買いとなる

株主還元① 配当金について

2025年3月期の配当金予想は増収増益を見込むこともあり
 記念配当を除く普通配当ベースでは**前期比での増配継続**を前提とする

		実績					予想
		2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2027年3月期
年間1株当たり 配当金		57円00銭				43円00銭	44円00銭
	普通配当	31円00銭	32円00銭	33円00銭	37円00銭		
	記念配当				20円00銭		
配当性向		46.2%				30.1%	31.2%
	普通配当	30.5%	33.9%	33.9%	30.0%		
	記念配当				16.2%		
総還元性向		30.5%	33.9%	33.9%	46.2%	35.7%	69.8%

□ 2026年3月期期末1株当たりの配当金の予想額は44円00銭と想定

» 前期比増配の継続を優先：記念配当を除く普通配当では**13期連続での増配**を見込む

株主還元② 株主優待制度について

2026年3月期も引き続き株主優待制度を実施予定

①1,000株以上

1万円相当の当社オリジナルカタログ
(グループ製品及び飲食料品を予定) より1点選択 + ②

<商品一例>

21.5型液晶ディスプレイ／パソコン工房1万円商品券
米沢牛すきやき肉／うなぎ蒲焼／アイスセット
日本酒セット 等



②100株以上1,000株未満

『パソコンワンコイン診断サービス』利用券
(500円×2枚)



Appendix

商号 : 株式会社MCJ (英語表記 MCJ Co.,Ltd.)

設立 : 1998年8月

代表者 : 代表取締役会長兼CEO 高島 勇二
代表取締役社長兼COO 安井 元康

資本金 : 3,868,102,900円

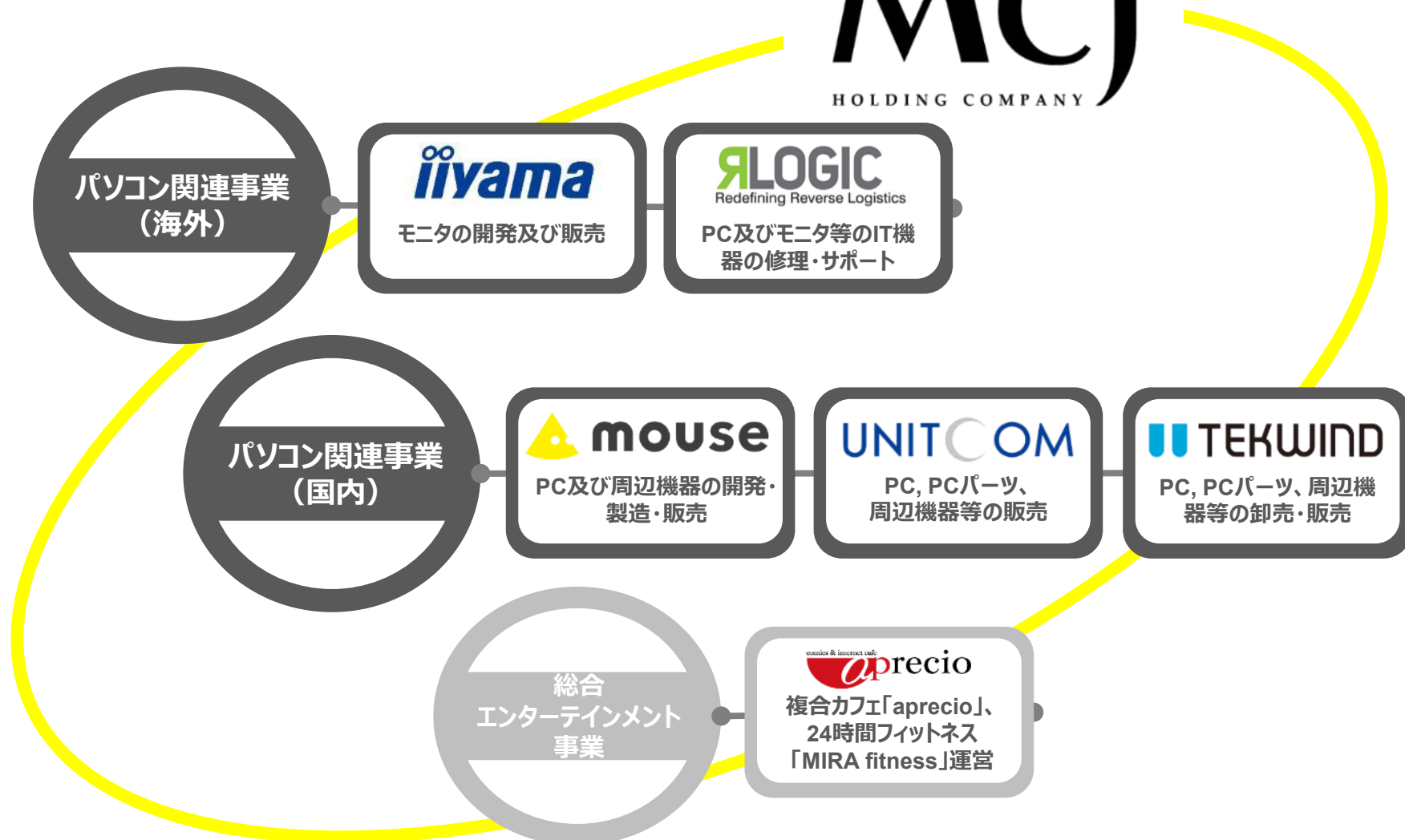
従業員数 (連結) : 3,949人 ※うち臨時職員1,698人 (2025年3月末)

発行済株式数 : 101,774,700株 (同上)

証券コード : 6670 (東京証券取引所スタンダード市場上場)

MCJグループ 主要子会社紹介

MCJ
HOLDING COMPANY



長期的な経営ビジョン ～ハードウェア×サービスの両輪による成長～

経営ビジョン及び事業方針

相乗効果

取扱製品（ハード）

の拡充

コンテンツ・サービス分野

への事業領域の拡大

設定の背景/考え方

情報に「アクセスする、発信する、共有する」手段としてのデバイスの多様化とユーザーニーズの多様化

- 形は変われども情報への接点としてのハードウェアは無い
- ハードウェアは成長産業

ハードウェア・サービスはそれぞれ独立関係ではなく、相互依存関係であり、ビジネスとしても一貫して捉えるのが自然

- ハードウェアよりも事業ドメインは意外とスタティックな世界
- ハードウェア以上の成長ポテンシャル

方向性/目標

- PC、モニタへの注力は継続
 - » 日本・欧州における更なる成長を模索
- コンシューマーハードウェア / 法人向けハードウェア...
 - » 成長市場へのアクセスを図る

- 既存ハード事業と親和性のあるサービス等の開拓
 - » 日本市場を中心としてスタート
- コンシューマー/法人向けサービス...
 - » まずはスモールスタート

目標達成手段

- 自社グループによる開発
- アライアンス戦略による拡大
 - » M&A、ベンチャー投資、事業提携...

- M&Aによる事業ドメインの拡大
- アライアンスによるサービス多様化
 - 当初はV B 投資 / 少額M&Aにて着手

経営上重視するKPI

重要視するKPI	実績数値及び目標数値		
	2023年3月期実績	2025年3月期実績	今回中期経営計画期間における目標
営業利益率 <営業利益/売上高>	7.5%	9.1%*	 7%以上 連結ベースで7%以上を目安に事業運営及びポートフォリオ管理を実施
ROIC <NOPAT/事業性投下資本>	18.8%	23.3%	 15%程度以上 資本コスト比スプレッドを確実に取る事を前提とし、資本効率を意識した事業運営及びポートフォリオ管理を実施。その前提で下限値を設定
ROE <当期純利益/期中平均自己資本>	15.3%	16.7%	
配当性向 <1株当たり配当金/1株当たり当期純利益>	33.7%	30.1%	 30%以上 下限を30%と設定し、M&Aを含む成長投資機会との兼ね合いにて都度判断
DOE <ROE×配当性向>	5.2%	5.0%	 4.5%程度 成長投資と株主還元のバランスを意識した経営を行うべく設定
総還元性向 <(配当金総額+自己株式取得額)/当期純利益>	33.7%	35.7%	 30～50%中心 80%上限目安 増配基調の維持を優先。想定ROE、株価水準等により自社株買いを実施

※ 2025年3月期の営業利益率は保有資産売却に係る一時収益を除いた数値となっております。

免責事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提として作成されており、実際の業績等は様々な要因によりこれらの見通しとは異なる可能性があります。

当社は、これらの将来の見通しに関する事項を常に改定する訳ではなく、またその責任も有しません。

尚、実際の業績等に影響を与えうる主な項目例は以下の通りとなりますが、将来見通しに影響を与える項目はこれらに限定されるものではありません。

- » 当社グループの事業領域を取り巻く各種経済情勢
- » 当社グループの製品・サービスに対する需要
- » 新製品等開発に係る当社グループの能力及び新製品・サービスの動向
- » M&Aや他社との事業等の提携
- » 資金調達環境、為替動向等の財務を取り巻く環境
- » 事故・自然災害等

< IR及び本資料に関するお問い合わせ >

株式会社MCJ
経営企画室 広報IR担当

Mail : ir-otoiawase@mcj.jp
HP : www.mcj.jp

